

令和7年度選定先における評価ポイント

◇ 三河安城交流拠点（旧称：アイシンアリーナ（仮称））

【概要】

- ・ シーホース三河(株)が設立した建設募金団体が調達した資金を利用して、(株)アイシンの工場跡地にアリーナを建設後安城市に寄贈（負担付き寄附）し、三河アリーナ(株)が運営・管理する事業

【評価ポイント】

- ・ 当初の「企業の福利厚生」から「地域課題への対応」へと舵を切り、行政とも連携しながら、民間主導で地域課題に取り組む姿勢は、地方におけるアリーナ建設のモデルケースとなり得る。
- ・ 運営会社がエリアマネジメント会社を目指す点も、今後のスポーツコンプレックスや地域マネジメントの議論に通じ、先進的な事例となる。

◇ GLION ARENA KOBE（旧称：神戸アリーナ（仮称））

【概要】

- ・ 神戸市から貸与された土地に NTT 都市開発(株)がアリーナを建設し、(株)スマートバリューと(株)NTT ドコモが出資した(株)One Bright KOBEにて運営・管理する事業

【評価ポイント】

- ・ 神戸ストークスとの一体経営を軸に、貸館と自主事業のバランスの取れたビジネスモデルを構築している点、神戸のまちづくりに貢献している点が高評価。
- ・ プロバスケットボール興行や音楽興行に加え、非興行日の活用や自主事業における注カイベントを組み合わせ、賑わいづくりと売上増加を目指した柔軟な経営方針も投資回収の実現に寄与。